

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570608893		
法人名	医療法人 鹿嶋医院		
事業所名	グループホームお達者倶楽部		
所在地	男鹿市北浦北浦表町字表町52-2		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体の医院といつでも連絡が取れる体制が整っており体調面で安心していただいています。コロナの状況の中制限はありますが、消毒、検温を徹底し通所介護の方との交流や外出しなくても生活に変化を持てるように日々努力しています。また、認知症進行の予防でその人に合った余暇を活動をしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって慣れ親しんだ自然風景の中で日常を送ることができる絶好の環境にホームは位置しています。恒例の地域行事や外出行事を控えていることから、職員はそれらに代わる楽しみを見い出せるようコロナ禍を乗り切る努力をしています。夜間の勤務形態を変更して支援体制の環境を整備している他、運営法人の医師による医療支援を軸に終末期のケアを実践し、本人、家族にとって終の棲家となる安心できる環境を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関及び事務所に運営理念をスタッフが見やすい位置に掲示しています。	本人の意向に沿った生活が継続できることをケアの目標として実践しています。時に会議の中で話し、新任職員には業務の中で実践していけるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の差し入れ等の間接的な交流はありますが、現在直接的な交流はほとんどありません。	現状では自粛していますが、地域の文化祭への参加等々、近所の方々とは十分に関わり合える関係です。地域柄、魚を届けていただいたり、訪問理美容を利用する等して感染症対策に配慮しながら交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	法人として認知症カフェの場所提供等をし地元の人への認知症への理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	幅広い職種の方に参加していただき多角的に意見をいただいています。	書面でホームの状況を報告し、意見をいただいています。地域の中のホームとして相互の協力体制づくりのためにも参加メンバーに働きかけ、会議を運営に活かす取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市から依頼された報告書や運営推進会議で実情を報告しています。また生活保護利用者の方の情報報告等定期的に行っています。	利用状況の報告や生活保護受給者の実態報告を定期的に行っている他、巡回型認知症カフェ開催のための場所を提供しており、法人全体で協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル整備や勉強会を通じて身体拘束を受けることが無いよう努めています。	勉強会を行っている他、新任職員へは日常業務を通じて理解が得られるよう取り組んでおり、身体拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル整備や勉強会を通じて虐待を受けることが無いよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的に学ぶ機会を持っていませんが、今後検討していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得していただき捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や毎月の利用料の請求明細確認時に返信ハガキに要望や意見を記入していただいています。	利用者からは日々の生活の中から出される要望等に対応できるよう努めています。家族から苦情等が出されることはないものの、毎月返信ハガキを使用していただくことで意見の引き出しに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	SNSや申し送りノートを活用し必要事項の周知や意見交換を行っています。不明な点や疑問点はその都度相談してもらい対応しています。	職員の意見はいつでも聞くことができる環境がつけられており、業務中に発生した事案等にも都度対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各家庭環境に応じて勤務日の調整等行い出来るだけスタッフのが働きやすい環境を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に自己評価を行い個々の得意、不得意分野を把握し得意分野を伸ばすよ努力をしています。また、スタッフの不安な事への勉強会をしています。資格取得予定者には個別に勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び男鹿南秋地区の連絡会に加盟しており、研修会や懇親会に参加し交流、ネットワーク作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の話をよく聞き入所後もこまめにコミュニケーションを図ることにより安心を確保する関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に希望等を話し合い、入所後も面会時や電話連絡等でお互い情報の共有をし家族とも家族のようになれる関係づくりに努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの得意分野を把握することにより長年培った知識等を教わる場面づくりをし家族の一員として重要と思ってもらえるよう支援しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でこまめに近況報告を行い離れていても近くに感じられるように努めています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	共用デイを利用している友人たちとコミュニケーションをしています。	コロナ禍でもあり、希望に沿うことができないこともありますが、家族と連絡をとりながらできる支援を続けています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで一緒に過ごせる時間を持てるよう会話やリハビリを行うことで孤立しないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は希望により洗濯や必要物品購入の代行、近況報告を行い、介護支援専門員と協力し退院後の受け入れ先等のフォローをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションから使用者様の希望を把握するよう努めています。本人からの確認が困難な場合は面会や電話の際に家族から希望を聞き利用者様本位になるように努めています。	職員と二人きりの時に話してくれることも多く、寄り添う中から本人の要望を生活の中に取り入れるようにしており、情報の共有も図っています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで家族や本人から聞き取りするほか、日常のコミュニケーションを通じて把握できるよう努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録をもとに利用者様一人ひとりの出来ることできないことの把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に情報交換をし介護支援専門員が主となり全体で介護計画を作成しています。	介護支援専門員を中心にして毎月話し合いを行い、介護計画の見直しを行っています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入したりミーティングノートやSNSを活用し常に情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭への出品等地域資源の活用・協力を得ながら支援を行っています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名それぞれが馴染みのある機関を利用しています。また、法人母体の医院には24時間連絡が取れる体制が整っております。近隣の薬局にも気軽に相談できるようになっており、希望があれば訪問歯科の受け入れ態勢も整っています。	入居前からの医療機関で受診している方もおり、状況に応じて支援しています。運営母体が医療機関であることから変更を希望される場合もあり、適切な支援に繋がっています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無いが法人内の看護師に気軽に相談できる体制が整っており、状態の確認等してもらい必要に応じて主治医に連絡しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には経過などについて医療機関との情報交換を家族や面会を通じて行っています。また、当法人の医院を利用されている方は本人、家族の意向を聞き医師同士での連絡調整も行っています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば主治医と相談しながらケアに当たっています。またみどりの同意書には十分な説明をし納得してもらい同意していただいています。	終末期には家族の宿泊にも対応が可能であり、職員は看取りの経験が豊富で、ホームとして本人、家族の希望する支援体制が確立しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており職員は内容を把握しております。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しており避難訓練を行っています。	例年の訓練では近隣の協力が得られており、非常口にはスロープが新設されています。広い敷地及び法人内の施設を近隣住民の避難場所とすることが可能です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドを損ねないよう利用者様一人ひとりに合わせた優しくわかりやすい声かけを心がけております。	あからさまな介護をしないことを心がけ、理念を念頭におき、配慮ある支援を行っています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を出来るだけ聞き入れて日々を暮らしていただいております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を基本にし、その中で出来るだけ本人の希望することを実現できるように支援しております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入った衣類等を使用できるように把握、支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には食器やお盆の後片付け等一人ひとり手伝えることを手伝っていただいております。また、毎月の食事会や外注も楽しみの一つとなっております。	外食が利用者にとって楽しみな催しの一つですが、感染防止のために自粛しており、提供の仕方を工夫して満足感の得られる食事となるよう努めています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握できております。また、食事量の低下等は本人の好きな者、食べれるものを準備しています。また、主治医と相談しながら進めております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯の洗浄、歯磨きをしております。また本人や家族からの希望があれば歯科受診や訪問歯科を受け入れる体制が整っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に一人ひとりの排泄状況を記録し、その人に合わせた支援を行っています。	トイレでの排泄を基本にしており、誘導のタイミングをチェックして費用負担の軽減にも取り組んでいます。夜間のポータブルトイレの併用や安眠を妨げないケアを行う等、その人に合った対応を検討しながら支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は飲食物の工夫をしたり、腹部のマッサージをしなるべく自力で排便できるよう支援しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週2回の入浴ですが希望があれば毎日入浴できる体制が整っております。	共用デイサービスの利用者があることから適時入浴できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は使い慣れたものを持参し手いています。また一人ひとりの状態に合わせて対応や就寝時間にしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬内容を確認できる仕組みになっています。処方変更時は記録で随時確認できるようになっています。また、主治医、薬剤師ともに連携がとれており常に確認が取れるようになっております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に出来る限り沿えるよう支援しています。日常の中で家事や仕事の役割を持つ利用者様もいらっしゃいます。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出の希望はあるがほぼ支援できていない。	密になる場所、時間帯を避けて外出することもあり、頻度は少ないものの戸外で過ごす機会がつけられるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人家族の希望一人ひとりの対応方法があります。買い物の際は自分で所持している人はもちろんのこと、立替でも自分でレジで支払えるような場面作りをしております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方に住んでいる場合やその都度利用者様から訴えがある場合等は、電話利用しております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間内でも一人ひとりが気持ちよく過ごせるように小上がりやソファを用いた空間づくりをしております。夜間、朝方等の廊下の光調整や調理の際の冷蔵庫の開閉音等に気を付けております。また季節に合った室内の換気や温度、湿度の調整に配慮しております。	機能訓練器具を廊下に移設していますが、車椅子の移動には支障がなく、また、浴室内も広い造りですが、床暖房を施設しており、浴槽は両側から介助できる位置に設置していて安心感があります。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の場所はリビングや居室等それぞれ好きな場所で自由に過ごせるようにしております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けのものもあるが希望があれば自宅で使用していたものを持参してもらっています。本人が必要とするものは持ち込まれており、過ごしやすい環境作りにも努めています。	入居の際は持ち込むものに制限のないことを伝え、本人、家族と意向を確認しながら自由に過ごせるよう居室環境を整えています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい大きい時計やカレンダーを置き、トイレもわかりやすいよう大きな字で印を書き間違えや混乱が無いようにしております。		